

カナダ種子生産者協会派遣 牧草種子技術視察団が来日

—編集係—

アメリカとともに、世界的な牧草種子生産および輸出国であるカナダから、標記の視察団が約3週間の日程で来日し、牧草関係各官庁、試験場、種苗会社団体、酪農家など日本全域にわたって接触を深め、牧草種子のPRに努めて帰ったことはわれわれにとってもビッグニュースでありました。

一行9名の中には、イネ科牧草育種の大家として知られているW・R・チルダース博士（カナダ政府農務省オタワ研究所、飼料作物部長）、穀物および牧草の麦角病研究の病理学者W・P・キャンベル博士（カナダ政府農務省、植物防疫部、技術部長）をはじめとして、カナダ種子生産者協会の要職にある人たちや州作物部長などが含まれており、わが国の酪農、草地の発展にカナダ政府が如何に大きい期待を寄せているかが察知されました。日程の概要は

4月10—11日：農林省畜産局、農政局、日本飼料作物種子協会訪問

12日：九州農試

15日：那須草地試験場

17日：東北農試、草地セミナー（盛岡）

18日：北海道庁

19日：新得畜産試験場 十勝種畜牧場

20日：帯広畜産大学、草地セミナー（帯広）

21日：草地セミナー（釧路）

22日：別海パイロットファーム、根釧農試

24日：訓子府種畜改良牧場、北見農試

26日：北農試、北大農学部

27日：雪印種苗、草地セミナー（札幌）

とくに北海道内は約10日間にわたり、マイクロバスで各地を巡り、牧草生育時期前であったが、熱心に実情視察が行なわれました。一行とともに、数年前カナダに留学された北大農学部木下博士、北農試草地開発部川端博士が同行されて案内役を勤め、視察団一同満足のようすでありました。

草地セミナーには、大学、官庁、普及所の農政草地関係者、試験場研究者、種子会社団体の人たちなど数十名が集まり、各地で盛大に催され、酪農草地、牧草



札幌でのセミナーはカナダ大使館の梅本氏の同時通訳で国際会議なみの盛り上がりであった

育種、種子などについて熱心な討論がくり広げられました。

カナダ種子生産者協会の人たちがもっとも強調していたことは、純良種子—証明種子の流通であり、証明種子は第1に遺伝的に優秀な血統を有する品種で、耐病性、耐寒性、高収量、高栄養生産性などについて検定試験の後に認定されたもので、その種子生産にあたっては、厳量な増殖段階と検査基準を経たものであること。第2に発芽率、第3に雑物（種子精選機で除けない破損種子、雑草種子など）についてもカナダ農務省の厳格な検査のもとに証明された高品質の種子をすすめたいということでありました。

カナダ種子生産者協会は、現在約7,000人の農業にたざざわっている会員からなり、カナダ農務省と密接な関連をもち、生産している種子はすべて遺伝的に優秀でありかつ純度品質が優れている証明種子であることをPRし、世界的な種場として大いに活用してほしい旨、訴えておりました。

近年、わが国における優良品種、奨励品種の種子増殖がOECD制度のもとに海外委託生産の態勢で進められている折から、カナダ種子生産者協会派遣による視察団一行の来日は、純良種子流通のための活性化剤として、意義深いものがあり、大きな余韻を残して去って行ったようであります。